

旧内務省下関土木出張所下関機械工場乾船渠



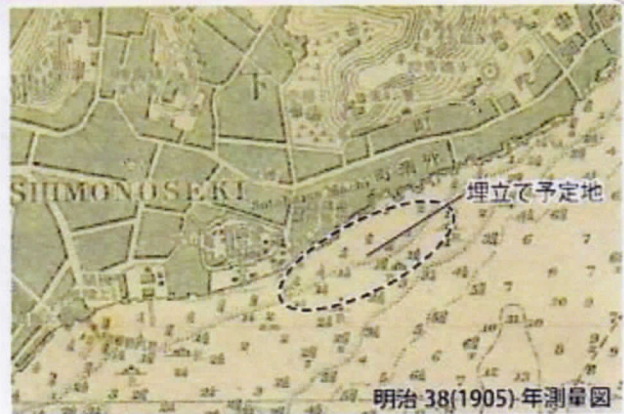
平成 27 (2015) 年 8 月 10 日撮影
渠底から渠頭側を望む (西 (戸船側) から)



平成 27(2015)年 8 月 15 日撮影
 乾船渠遠景 (北東上空から)

本乾船渠は、関門海峡に面した阿弥陀寺町に所在する。関門海峡は現在、浚渫工事により水深約 11m が確保されているものの、明治時代以前は浅瀬や岩礁が多く、交通の難所であった。

そこで、明治 43 年から当時の内務省により「関門海峡改良工事」により大規模な除礁・浚渫作業が始まった。



明治 38(1905)年測量図



昭和 34(1959)年測量図

当時、付近は海中であった。そこで先ず阿弥陀寺町・外浜町前面を埋め立て、明治 45 年には船留を備えた埋立地を完成させた。

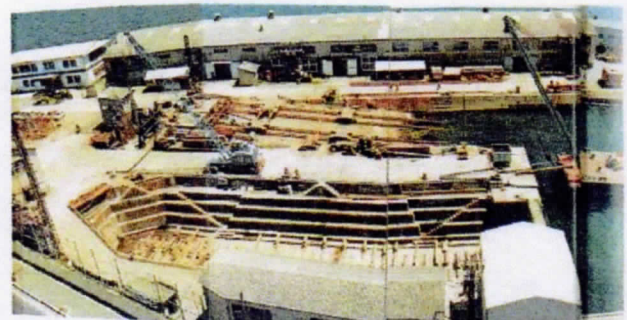
また、埋立地には「関門海峡改良工事」の拠点となる「下関土木出張所」を設置し、船舶の建造や修理を行うための「下関機械工場」を付設させた。乾船渠は、この工場に設けられた整備施設である。



平成26(2014)年12月8日撮影
乾船渠周辺(北上空から)※永山建設株式会社提供

下関は、明治時代になると国際貿易港の役割を担うようになり、関門海峡の浚渫が急がれた。そのため、作業にあたる船舶の修繕を行う「乾船渠」の築造を大正2年(1913)に始め、大正3年(1914)に完成させた。

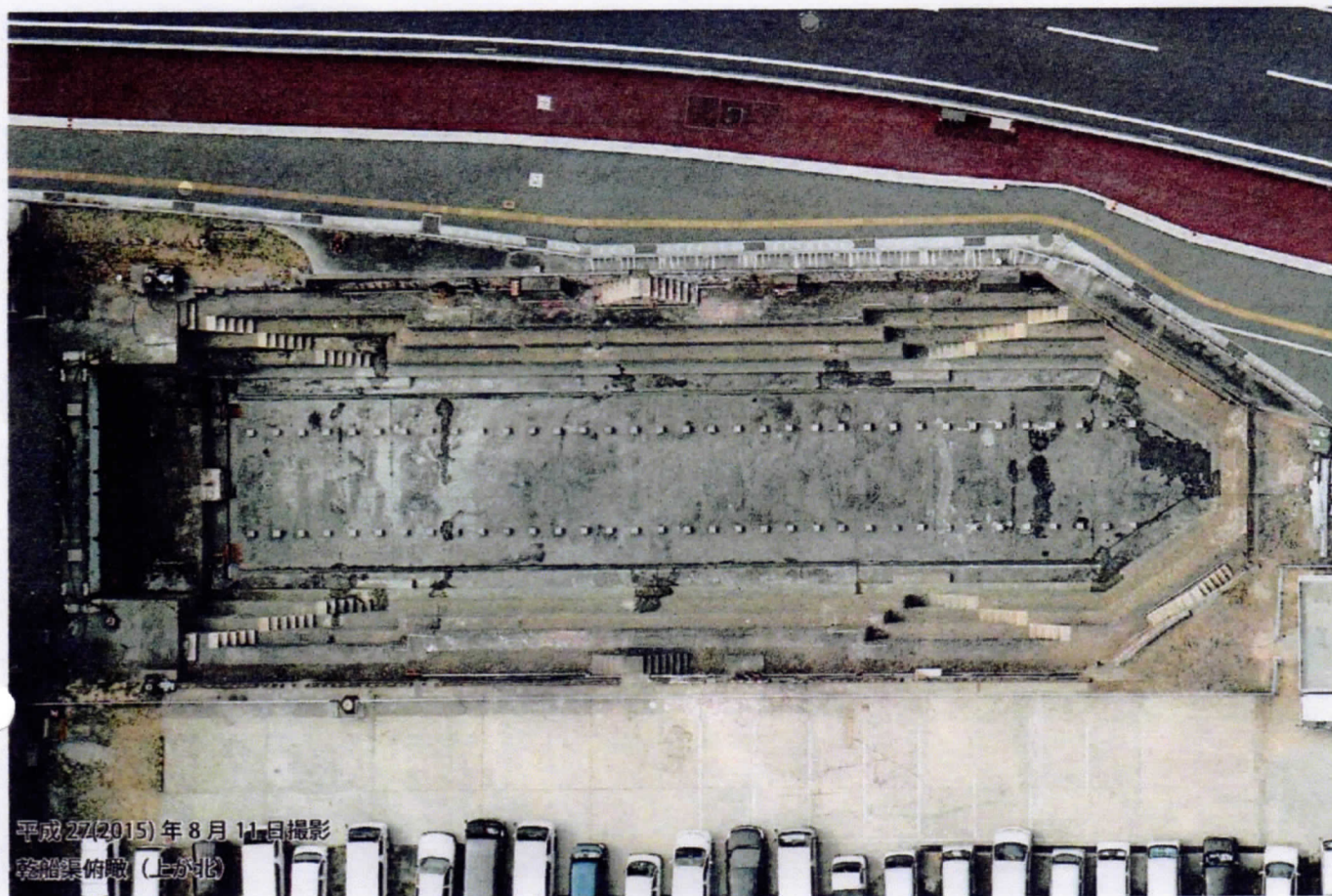
海峡の竣工工事は、昭和15年(1940)の第3期関門海峡改良工事まで継続されたが、その後、戦時状況により一時打ち切られた。



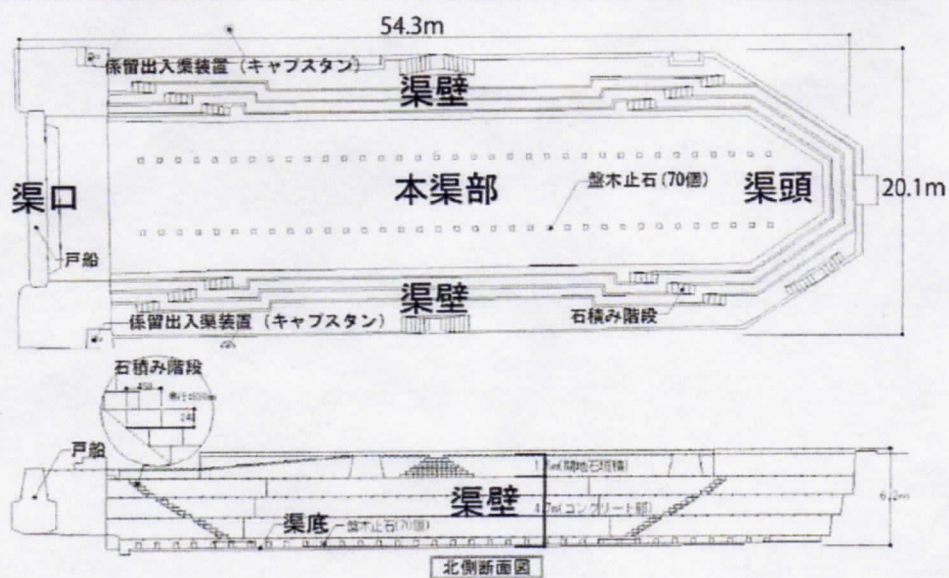
昭和55(1980)年、構内全景(国道側北から)

年号	出来事
明治43(1910)	関門海峡が第一種重要港湾施設に指定、「関門海峡改良工事」着手
44(1911)	内務省下関土木出張所設置
45(1912)	埋め立て工事終了、下関機械工場設置
大正2(1913)	乾船渠建設の着工(9月)
3(1914)	乾船渠建設の竣工(10月)
昭和18(1943)	運輸通信省第四港湾建設部下関機械工場に改組
20(1945)	運輸省第四港湾建設部下関機械工場に改組
35(1960)	運輸省第四港湾建設部下関機械整備事務所に改組
平成9(1997)	東大和町へ事務所を移転 乾船渠を含め跡地を下関市に有償譲渡
平成27(2015)	乾船渠が市有形文化財(建造物)指定(10月)

大戦時の空襲により工場は焼失したが、戦後復旧され、その後、運輸省第4港湾建設局に施設の運営が引き継がれた。戦後復旧から高度経済成長を経て、一時期活況を呈するが、港湾開発の方針転換や、新技術の開発に伴い、平成9年、市内東大和町へ施設を移転するのに伴い、下関市に跡地が有償譲渡され、その役割を終えた。



- 6 -



〔構造物の概要〕

- 面積：1206.8 m² ● 全長：54.3m ● 幅 20.1m ● 深さ：6.2m
- 構造：5 段の階段状側面の内、上端は間知石垣、下部4 段は無筋コンクリート（階段は赤御影石）。渠底も無筋コンクリートに、コンクリート盤木留付設。戸船は現況、鉄骨造（当初は木造）。現況4 つのキャブスタンの内、鋳鉄造1 つ（附指定）。● 500 t 自航土運搬船の運用を標準

- 7 -



平成 27(2015)年 8月 11日撮影
 乾船渠全景 (戸船側西から)

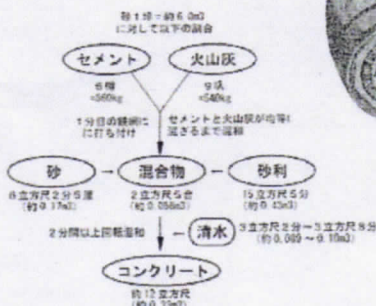


平成 27(2015)年 8月 11日撮影
 乾船渠全景 (渠頭側東から)

大正期までの乾船渠は石造が一般的であったが、本乾船渠は無筋コンクリート造であり、我が国に残存する最古級のコンクリート造乾船渠といえる。また、コンクリートの使用も、重要な部分はコンクリートのみで築造するものの、その他の部分は節約のため粗石を混入する。また、使用したコンクリートには火山灰が混ぜられた耐海水性の特徴をもつ。



本乾船渠には、築造当時の付設物として唯一、鋳鉄製のキャプスタンが残る。キャプstanは鋼索等を巻き上げる回転機械で蒸気式や電気式などが見られる。一般的には船の甲板に設置されるものであるが、本資料は乾船渠外周に残存するもので、類例が少なく、また初期の人力式であるため、希少な資料として附指定されたものである。





平成27(2015)年8月11日撮影
乾船渠全景(戸船側北西から)

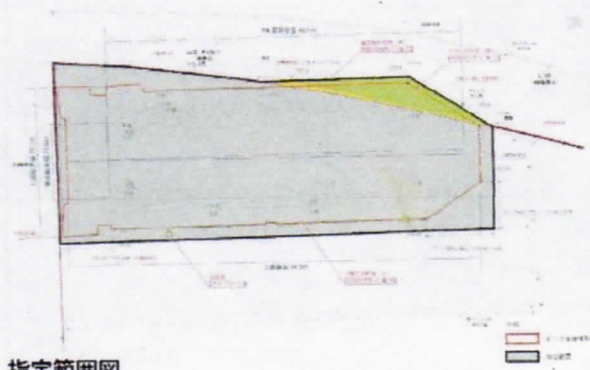
本乾船渠は、昭和に入ってからコンクリート造の乾船渠が主流となる中、その先駆けとなる土木構造物として重要な文化財といえる。

また、明治時代から大正時代にかけての造船施設そのものの残存例が国内では非常に少ない中、当時の構造を今に伝える本乾船渠は、わが国の土木技術史を語る上でも高い価値を有している。



工事後のイメージ図

加えて、本乾船渠は、日本の近代化を支えた重要港湾である関門海峡の港湾整備事業に多大な役割を果たした施設であり、やがて九州各地の河川工事等も所管することとなる西日本最大の土木基地であった旧内務省下関土木出張所下関機械工場の現存遺構であり、下関機械工場の象徴的存在であったことも含めれば、本市の近代史を考える上で重要である。



指定範囲図

資料のお問合せ：

下関市教育委員会教育部 文化財保護課

住所：下関市大字綾戸木 454 下関市立考古博物館

TEL：083-252-3867 FAX：083-254-3062

E-mail：kibunkak@city.shimonosekiyamaguchi.jp



平成 27(2015)年 8 月 10 日撮影
渠底から戸船側を望む（東（渠頭側）から）